

JICA 日系社会シニア・ボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

先日、学校へ行く途中の事です。歩いていたら次の瞬間地面が目前にありました。

一瞬のことでした。つまずいて転んでしまったのです。土曜日で人通りが少ない時間でした。すぐに起き上がれずにいると、見知らぬ人がわざわざ車から降りて起こしてくれました。

『病院へいきましょうか』と申し出てくれましたが、そこはやはり日本人、なぜか日本語混じりで『グラッシャス、グラッシャス。大丈夫。大丈夫。』と丁寧にお礼を言い、歩き出しました。

サルタの歩道は石畳だったり壊れていたりして、とても歩きにくいのですが、シニア世代にとって、ひどく段差があるときは転ばないのですが、ほんの少しの段差でつまずいてしまいます。

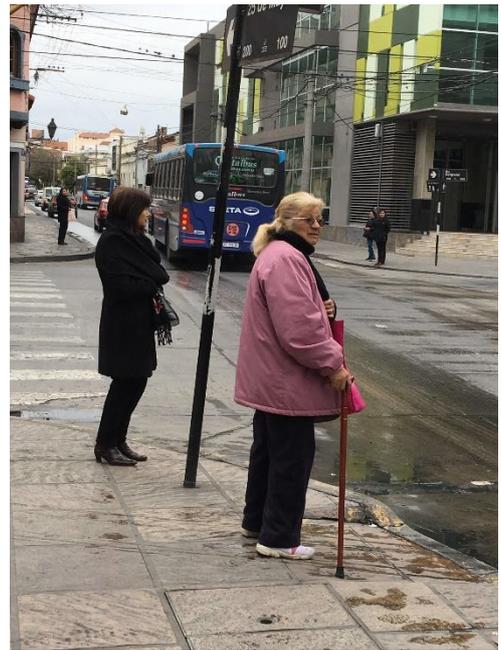
そして、今日、銀行へ行く途中、一人の年配のご婦人が道路でつまずき、起き上がれない状態に遭遇しました。ちょうど歩道と車道の間で横たわっていたため、私を含め、通りがかった者5人でその女性を抱え、店の入り口の石段まで運びました。すると、そこへ通りがかった若い女性が『救急車を呼びましょうか』と申し出て、電話をし始めました。と、そこへ出てきたのが、その店のご主人。椅子を持ってきて、その年配の女性を座らせました。道で転ぶのは私だけでなく、地元の人も転ぶんですね。

そういえば、道を歩いていると杖を突いて歩いている年配者をよくみかけます。一番驚くのは、こんな道路状況の中、目の見えない人が白い杖をついて歩いていることです。



車いすの人もいます。どの交差点でも車道と歩道の間には10cmほどの段差があります。交差点などでは、障害のある方たちを介助している姿もよく見かけます。決して豊かではありませんが、障害があっても力強く、助け合って生活している様子うかがえます。

先日の朝、バスを待っていると、道路の向う側の店の前に人が集まっていて、犬の鳴き声がありました。よく見ると、一匹の犬がドアに開いた穴に首を突っ込んで抜けなくなっていました。犬好きの人達でしょうか、バスに乗るのをあきらめてその犬の救出に参加していました。警察も来て店の主に電話するなど、ちょっとした救出劇でした。サルタの人は、優しい人が多いですね。



犬が頭を突っ込んだ穴。今はふさがれています。



誰がそうするのでしょうか。冬になると、野良犬も洋服を着ています。

